

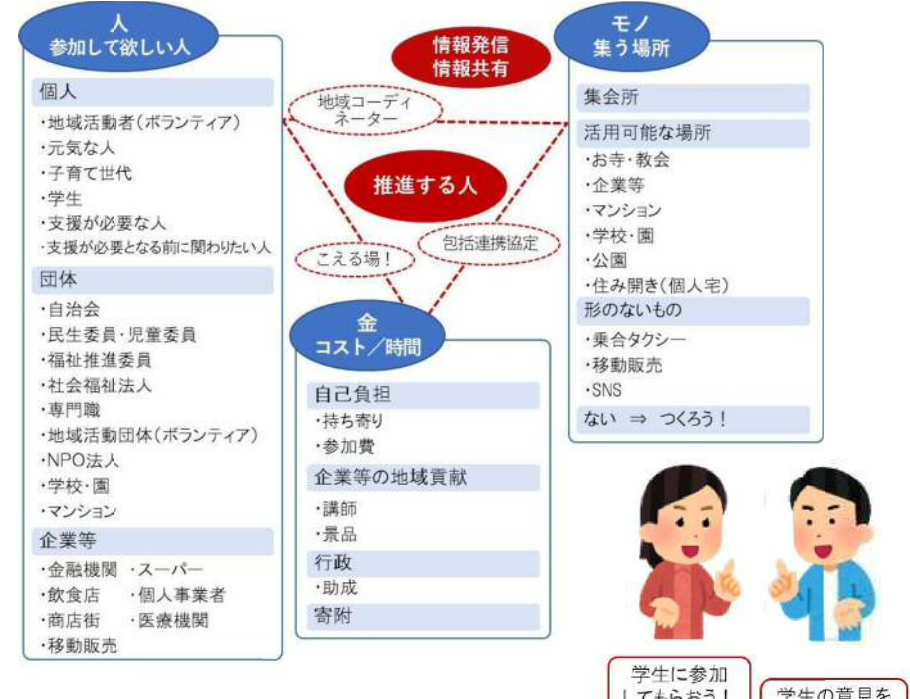
第4次地域福祉計画策定に係る「検討チームC」多様な主体の参加につながるまちづくりの仕組み

〈第1回～第4回検討会まとめ〉

地域活動を行っている企業・団体等の多様な分野の人や地域と関わる人の参加を増やし、つながりの再発見と創出を考えます  
 <題 材> ●「こえる場！」との協働 ●つながる居場所づくり ●参加型のしごとづくり

〈参加者〉社会福祉法人聖徳園、芦屋市社会福祉協議会、健康課、情報政策課、政策推進課、市民参画課、地域福祉課  
 地域福祉部会委員：杉田委員、納谷委員、橋野委員、佐瀬委員

	問題点	主な意見
情報発信・周知啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な情報が届けられていない</li> <li>点を面にする仕組みができていない</li> <li>地域活動者間でも互いの活動内容を知らない</li> <li>高齢者は SNS 等の使用には不慣れで不安がある</li> <li>「場」の大切さは、福祉に携わっている人や「場」から何かが生み出される体感がある人以外には伝わりにくい</li> </ul>	<p>情報</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①情報をどうつなげ、どう拡散するかが重要</li> <li>②やはり口伝えや紙伝えが一番強いのでは</li> <li>③対象者を絞り、世代に合った方法で情報発信が必要</li> <li>④支援の成功事例を積み上げ、情報共有することが大事</li> <li>⑤活動のプロセスや結果報告は次のステップにつながる</li> </ol>
地域・コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域活動を推進する人材の不足</li> <li>隣近所のつきあいが少ない</li> <li>マンションの孤立化と問題の潜在化</li> <li>地域・世代間に温度差がある</li> <li>自分から動き出せない人へのアプローチは困難</li> </ul>	<p>つながり</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>⑥障がい者に手伝って欲しいと声がかかるようにしたい</li> <li>⑦今後支援が必要となる前に予防的な観点で働きかけたい</li> <li>⑧声をかけあえる関係づくりが必要</li> <li>⑨対象者やテーマを絞れば集まりやすい</li> <li>⑩若い人、働き盛りの大人、高齢者に共通するテーマは？</li> <li>⑪「健康」というテーマはみんなの関心が集まりやすい</li> </ol>
協働と参加支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動場所が少ない</li> <li>「人」「モノ」「金」が揃っていることは少ない</li> <li>「こえる場！」の周知不足</li> <li>企業から何らかの協力をしたいとの働きかけがあるが、市側にも具体的なアイデアがないため結びついていない。</li> <li>企業との協働は継続が難しい</li> <li>社会とつながることが難しい人の働き場所が少ない</li> </ul>	<p>参加</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>⑫社会とつながることが難しい人が、多様な働き方ができるような受皿があればよい</li> <li>⑬自分から動き出せない人が、次のアクションを起こすきっかけづくりが必要</li> </ol> <p>資源</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>⑭人や物を発掘していく仕組みができればよい</li> <li>⑮「使いたい」と「貸せる」を上手にマッチさせたい</li> <li>⑯ないものがあれば作ろうという発想</li> </ol> <p>企業</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>⑰地域にある資源、企業、団体がまちづくりにどう関わっていただけるか</li> <li>⑱スーパーや銀行、災害の避難所のように既にできている関係性を拡充していければよいのではない</li> <li>⑲コミュニティビジネスを普及させたい</li> </ol> <p>学生</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>⑳地域福祉に触れるきっかけを提供できればよい</li> <li>㉑社会とのつながりを学ぶ場が必要</li> <li>㉒市内の教育関係者とつながる仕組みがつかれないか</li> </ol>



取組アイデア	
・対象者にあつた手段(媒体)を使う	・地域の活動を「見える化」する
・「〇〇やってみた」動画の配信	・プロセスや活動・仕組みをわかりやすく手軽な発信
・プロセスからいろいろな人に参加してもらう	・移動販売車(キッチンカー、豆腐移動販売)を形のない居場所に
・地域活動に参加した人からの情報拡散	・学校園、活動団体、企業等多様な組織への情報提供
・小学校入学の準備をビジネスにできないか	・芦屋の企業と組んでブランド化するなどビジネスにならないか
・学校のオリエンテーションや学園祭で情報発信する	・フードコードの空時間帯の活用
・お寺や教会などの集会所以外の使える場所が周知できる取組	・当事者や関わる人からの思いや得られたことが伝わる人にフォーカスした発信
・資源(人・モノ・金)を発掘・マッチングするしくみづくり(芦屋市版ポータル的なものがあればよい)	・施設等の高齢者が作成している編み物等をお披露目、販売できる集いがないか

- 成功事例・協働事例
- ◇ マンションの集会所を地域活動の拠点にできた
  - ◇ スマホ講座 (地域福祉アクションプログラム推進協議会)
  - ◇ 全国高校生お中元プロジェクト(リードあしや)
  - ◇ 夏休みわくわくスペシャル(リードあしや)
  - ◇ 星空観察会(岩園町)
  - ◇ 居場所への参加 つながりが希薄だった人が地域を見守る一員となった
  - ◇ 熱中症予防の取組(大塚製薬⇄市)
  - ◇ フードドライブ(コープこうべ⇄市⇄社協)
  - ◇ 健康ポイント事業(第一生命/大塚製薬⇄市)
  - ◇ 事業者の合理的配慮提供(身障協会⇄商工会)
  - ◇ 栄養と健康の講座(ヤクルト⇄社協)

〈第3回検討会意見〉

- ・学生や20代、30代の方が地域福祉に触れるきっかけを考えられたらよい
- ・学生が参加すると大人たちは盛り上がる
- ・若い人が住みたいまちは？
- ・学生たちは芦屋をどのように思っているのか

